

【週刊タバコの正体】

Vol.49 第3話～第7話

2021年05月

和歌山工業高校 奥田恭久

■Vol. 49

(No. 664) 第3話 ニコチン切れのストレス

ーニコチン依存症はニコチン切れのストレスを背負う...

「タバコは健康に悪い」ことは誰でも知っているのに、なぜ吸い続ける人がいるのでしょうか。それは、タバコに含まれる“ニコチン”のせいなのです。

タバコの煙を吸い込むと肺を経由してニコチンが血液に溶け込み脳に届きます。するとニコチンに反応して“ドーパミン”という物質が放出されます。ドーパミンは快感をもたらす作用があるので、人々は心地よくなるのです。

(No. 665) 第4話 禁煙は当然

ー受動喫煙による健康被害で「禁煙は当然」と言える時代...

いったんタバコを吸い始めてしまいニコチン依存症になって、何十年も毎日タバコを吸い続ける生活をしている人が大勢います。そんな喫煙者は毎日何本もタバコを吸うので、周りにはその煙が漂う機会が多くなります。そうすると周りの人たちもその煙を吸わされる機会が多くなるわけです。

そこで、下図を見てください。喫煙者がタバコを吸うと自分自身が吸い込む「主流煙」の他に、火のついたタバコから出る「副流煙」、喫煙者が吐き出す「呼出煙」が周りに拡散します。この煙を吸わされる事が「受動喫煙」と呼ばれる「望まない喫煙」なのです。

(No. 666) 第5話 警告表示

ー肺がんの警告表示されているようなものを買う必要がないこと...

「喫煙は、あなたにとって肺がんの原因の一つとなり、心筋梗塞・脳卒中の危険性や肺気腫を悪化させる危険性を高めます。」こんな警告文が書かれている商品を買う人はいるのでしょうか。

(No. 667) 第6話 なんとかしなくては

ータバコの税収で財政を立て直した歴史的経緯...

「肺がんになる危険性があります」と警告表示をしているタバコが、どうして販売されているのでしょうか。それは、国家の財政と大きく関係しているからです。

日本が江戸幕府から明治政府に変わり近代国家になったのはたった150年前のことですが、それに伴い国家の財源確保が大きな課題でした。下記にあるように、その対策としてタバコに税金を課す制度が始まったのです。

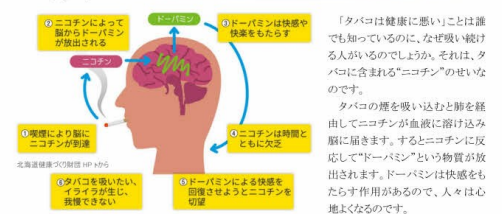
「煙草専売法」という法律を制定し、国がタバコの製造販売を独占して行い国家の財源を確保したのでした。

(No. 668) 第7話 FCTCと各国

ータバコの健康被害対策は世界的規模だが日本は遅れている...

日本のタバコには「肺がんになる危険性があります」などの警告表示がされている事はすで紹介しましたね。ところが下の写真を見てください。海外のタバコには、警告文とともにちょっと直視したくないような画像が印刷されているのです。こんな画像を目にして購入するのはかなり抵抗があるでしょうね。こんなに強烈な警告しているのには訳があります。

Volume 49 週刊 タバコの正体 第3話



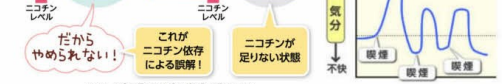
「タバコは健康に悪い」ことは誰でも知っているのに、なぜ吸い続ける人がいるのでしょうか。それは、タバコに含まれる“ニコチン”のせいなのです。

タバコの煙を吸い込むと肺を経由してニコチンが血液に溶け込み脳に届きます。するとニコチンに反応して“ドーパミン”という物質が放出されます。ドーパミンは快感をもたらす作用があるので、人々は心地よくなるのです。

ニコチンが体内に入るとドーパミンが出て心地よくなる事を何回か繰り返してしまえば、「タバコを吸うと心地よくなる」ことに慣り始めてしまう訳です。これが“ニコチン依存症”の始まりで、「タバコは健康に悪い」どころか気持ち良くなるものとして意識のなかに潜んでしまうのです。

こうなると、タバコは簡単にやめられなくなります。とういうのも下図のように、体内のニコチンはすぐ消えてしまうので、そのたびに心地よくなるタバコを吸いたくなるのです。つまり、体内にニコチンがないと気分が落ち着かなくなる“ニコチン切れのストレス”を解消するため、タバコを吸い続ける毎日となるわけです。

喫煙者しか感じないニコチン切れのストレス解消のために有害な煙を毎日吸い続ける事になってしまふのですから、タバコを吸い始めるなんて、あえいな選択ですな。



産業デザイン科 奥田 恭久

Volume 49 週刊 タバコの正体 第7話

日本のタバコには「肺がんになる危険性があります」などの警告表示がされている事はすで紹介しましたね。ところが下の写真を見てください。海外のタバコには、警告文とともにちょっと直視したくないような画像が印刷されているのです。こんな画像を目にして購入するのはかなり抵抗があるでしょうね。こんなに強烈な警告しているのには訳があります。

じつは、タバコが原因でなくなる人は全世界で年間700万人を超えているとWHO(世界保健機関)が発表しています。そのためWHOはタバコの健康被害をなくするための「タバコ規制枠組み条約(FCTC)」という世界条約を制定しました。現在、日本を含む世界の182か国が締結して、この条約が示す対策を実践しています。写真の警告表示もその一つなのです。



国	100本入りタバコ1箱の価格
1. Australia	27.22 \$
2. New Zealand	23.75 \$
3. Ireland	16.52 \$
4. Norway	15.80 \$
5. United Kingdom	15.58 \$
6. Canada	12.39 \$
7. France	12.15 \$
8. Iceland	11.67 \$
9. Israel	10.69 \$
10. Singapore	10.55 \$
11. Puerto Rico	10.00 \$
12. Netherlands	9.72 \$
13. Finland	9.72 \$
14. Switzerland	9.43 \$
15. Denmark	8.82 \$
16. Germany	8.50 \$
17. Belgium	8.50 \$
18. United States	8.00 \$
19. Jamaica	7.96 \$
20. Sweden	7.91 \$
53. Japan	4.57 \$

さらに、その下のグラフを見て下さい。Marlboro というタバコの値段を国別で表したものです。1 \$は約100円だとすると、1番高いオーストラリアではなんと2700円もします。以下ニュージーランドも2370円、5番目のイギリスは1550円、10番目のシンガポールは1050円です。タバコの値段を高くするのもFCTCで定められているからなのです。

こんなに高くして強烈な警告入りのタバコを買う人なんてはいないの、と思うぐらい多くの国ではFCTCに従ってタバコが売れないような対策がとられています。つまりタバコの健康被害をなくそうとしているのです。

一方、優しい警告表示のタバコを500円で買える日本は、世界のこんな流れにひどく乗り遅れています。

産業デザイン科 奥田 恭久

毎週火曜日発行



URL: https://www.jascs.jp/truth_of_tabacco/truth_of_tabacco_index.html

※週刊タバコの正体は日本禁煙科学会のHPでご覧下さい。
 ※一話ごとにpdfファイルで閲覧・ダウンロードが可能です。
 ※HPへのアクセスには右のQRコードが利用できます。

